

柳町歴史的地域の賑わいを図れ



黒田 利人

歴史的建造物が集中している柳町地域に、単発的でなく、常に人の賑わいをつくる策として、年間を通して、市・地区をあげてイベントを行うために各種団体への働きかけを積極的に行う必要性を感じるが、どうか。

△、まちおん等を開催している。これらの活動には今後も積極的に取り組み、その輪を徐々に広げていきたい。年間を通して施策を展開することは非常に重要であり、各種団体等に活用していただきたい。市の全庁的な取り組みが少ないので、今後進めていきたい。どんなことができるのか、また、どんな展開がいいのかということも、いろいろ研究しながら模索していきたい。

佐賀市の環状線について



永刈 利己

西部、南部、東部に続き北部環状線は佐賀市の道路網に必要な計画路線である。広域的な連携を保つため、九州自動車横断道路や有明海沿岸道路、佐賀唐津道路との連携強化を図りまちづくりに生かすべき、北部環状線はどうか。

△、まちおん等を開催している。これらの活動には今後も積極的に取り組み、その輪を徐々に広げていきたい。年間を通して施策を展開することは非常に重要であり、各種団体等に活用していただきたい。市の全庁的な取り組みが少ないので、今後進めていきたい。どんなことができるのか、また、どんな展開がいいのかということも、いろいろ研究しながら模索していきたい。

市税のコンビニ収納の導入を！



池田 正弘

近年、市税の納税方法として、コンビニでの払込みやクレジットカードでの納金を取り入れる自治体も増えている。生活環境の変化や多様性に応じた取り組みが必要だが、市民サービスの観点から、佐賀市でもコンビニ収納ができないか。

△、まちおん等を開催している。これらの活動には今後も積極的に取り組み、その輪を徐々に広げていきたい。年間を通して施策を展開することは非常に重要であり、各種団体等に活用していただきたい。市の全庁的な取り組みが少ないので、今後進めていきたい。どんなことができるのか、また、どんな展開がいいのかということも、いろいろ研究しながら模索していきたい。

3月14日(金)

さが桜マラソンの取り組みについて



川原田 裕明

さが桜マラソン大会を活用して観光施策に生かした取り組みを行う必要がある。数多くのボランティアを募りもつと観光客誘致に力を注ぎ、イベント性を重視し

△、まちおん等を開催している。これらの活動には今後も積極的に取り組み、その輪を徐々に広げていきたい。年間を通して施策を展開することは非常に重要であり、各種団体等に活用していただきたい。市の全庁的な取り組みが少ないので、今後進めていきたい。どんなことができるのか、また、どんな展開がいいのかということも、いろいろ研究しながら模索していきたい。

マイクロボスの運行継続について

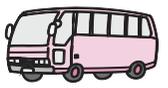


白倉 和子

①旧町のマイクロボスが十九年三月末で廃止される。高齢者対策の一環としてフル活用されていただけに市長と語る会でも要望

△、まちおん等を開催している。これらの活動には今後も積極的に取り組み、その輪を徐々に広げていきたい。年間を通して施策を展開することは非常に重要であり、各種団体等に活用していただきたい。市の全庁的な取り組みが少ないので、今後進めていきたい。どんなことができるのか、また、どんな展開がいいのかということも、いろいろ研究しながら模索していきたい。

△、今、調査研究を行っている状況である。
◆その他◆特定健診・保健指導体制／緊急通報システムの対応／学校給食安全性と地産地消



学校給食は業者委託でいいか



西岡 正博

一部の学校では、給食において、平成十五年度から本格的に調理と洗浄を業者に委託しているが、新年度からは二校増えて十校が

委託となる。今日までの経緯経過と利点は、また不安を感じるが今後の考えは、
答弁 献立作成や食材の発注は今までどおり学校栄養職員が行い、調理と洗浄

を民間に委託し既存の給食室で行う学校給食の一部民間委託は、旧佐賀市の教育委員会が進める行政改革の一ツとして平成二十年度から検討を重ねてきた。利点

として削減した経費を活用し、学校栄養職員が未配置であった学校に嘱託職員として配置するなど、よりきめ細やかな食育指導の充実に図ることができた。今後

は正規調理員の退職状況に応じ随時、一部民間委託に移行していきたい。
◆その他◆農業振興策について

3月17日(月)

子ども議会の実施について



野中 宣明

平成十八年三月議会で、「できればやっていきたい」と考えるが、実施する際の課題が多々あるため、まずは中学生版の市長と語る会を実施し、それを検証した上で後に続けていきたい」との答弁であったが、どのように検証されてきたか。

△、まちおん等を開催している。これらの活動には今後も積極的に取り組み、その輪を徐々に広げていきたい。年間を通して施策を展開することは非常に重要であり、各種団体等に活用していただきたい。市の全庁的な取り組みが少ないので、今後進めていきたい。どんなことができるのか、また、どんな展開がいいのかということも、いろいろ研究しながら模索していきたい。

◆その他◆地方分権に向けての取り組みについて

「住まいは人権」の視点で①加齢・障がい等による住み替えを同一団地外にも拡大を②同居や承継は入居者の実態に応じた対応を③条例十六条の家賃減免規定を生かした対応を④指定管理者への委託業務を建物の維持管理に限定すべき。

◆その他◆市立公民館の地域委託の成果課題について／自治体シンクタンクの創設について

ふるさと納税パンフレット

答弁 子ども版市長と語る会については、三瀬中、松梅中、富士中、北山中で開催した。来年度から行う市民性を育む教育や子ども版市長と語る会、生徒会活動で地域や学校の問題を取り上げるなどによって、子どもたちの意思表明能力を高めるとともに、佐賀市のまちづくりに子どもたちの目線での意見を取り入れていくという意義は、十分果たすことができると考えている。子ども議会という形式ではないが、関係部署と連携を取り、子どもたちの力を高めていきたい。

◆その他◆地方分権に向けての取り組みについて

◆その他◆地方分権に向けての取り組みについて

◆その他◆地方分権に向けての取り組みについて

◆その他◆地方分権に向けての取り組みについて

ふるさと納税パンフレット

エコポイント制度の導入で環境対策



福島 龍一

市は天ぷら油回収、マイバック持参、省エネモーター事業等を実施しているが効果が上がらない。そこで評価制度として、ゴミ袋等と交換できるエコポイント制度を導入して、市民が参加しやすい工夫をするべきと思うが。

答弁 三月末公表の新環境基本計画では、佐賀市の将来の望ましい環境像を実現するため、七つの基本目標を定める予定。その一つに「環境配慮行動の評価」を掲げ、環境に良いことに取り組んでいただいた市民事業者に何らかの評価やメリットを与えることは必要と考えている。エコポイント制度は環境配慮行動を促す手法の一つであり、効果はあると認識している。環

境配慮行動に対し、適正に評価する仕組みづくりに着手していく中で、今後検討材料の一つとしていきたい。
◆その他◆市民力を引出す地域ポイント制度を/市民活動をサポートするパーセント法の条理化を



天ぷら油回収ボックス

3月18日(火)

老朽プール改修整備は合併特例債で



平原 嘉徳

現在 市内の小・中学校では耐用年数を過ぎた古いプールが多い。早急に改修整備が必要だ。耐用年数を過ぎていく学校はいくつあり、今後の改修計画はどうなっているか。これらの財源は合併特例債が有効であ

るがその活用の考え方は。
答弁 プールの基本的な耐用年数三十年を超えている施設は二十三ある。プールは建物に比べ地震による倒壊の危険性が低いことから、改修工事を行うことで長期利用が可能な認識を持っている。建てかえには約一億円の費用を要するが、改修であればその半程度で済むため、今後は改修工事を基本として進めていく。



老朽化したプール

また財源については、十年間合併特例債の活用ができるため、年間借入れ限度額の半分である約十億円を教育施設整備の財源として充てる予定である。
◆その他◆企業誘致について/民間市場建設(天和町国分地区)について

特別委員会

中心市街地活性化調査特別委員会

十月十八日開催

エスプラッツについて

説明 二階医療健康ゾーンについて、在宅医療コミュニティセンター「アイオナ」とカルチャー教室「佐賀新聞文化センターフィット教室」が正式に決定。なお日曜は中心街の通行量が少ないとの指摘を受けていたのでも市から佐賀新聞文化センターへお願いをしたところ、三階の一部は十二月から日曜にも開講していただくこととなった。

営業は人件費等経費もかかるので困難な交渉ではあるが地道にお願いしていく。
説明 指定管理者制度について、指定管理者選定は公募を行い、外部委員を含む審査委員会(月下旬に審査を行う。応募資格は佐賀市内に本社、本店がある法人、団体とし、業務は施設の維持管理、運営、テナントリーシングなど。利用料金制度を用いることにより指定管理者の経営努力が発揮しやすくなる。
質問 応募資格については市内に限定した理由について。
答弁 佐賀のまちをよく理解している強い愛着を持つ企業等に指定管理者をお願いしたいから。

と予算計上している人件費から実際は減員しても市直営の管理運営内容と同等であれば人件費等を削減することにより、より大きなインセンティブが考えられる。
意見 外から一階にスパーがあることが非常にわかりづらい。広告などはテナントの裁量である程度自由に行えるよう検討を。

中心市街地の現状について

一月十四日開催



中心商店街

執行部からの中心市街地の概要説明と現地視察として中心商店街を歩いて見てまわり、各商店街の代表の方たちと意見交換を行った。

市立病院等調査特別委員会

二月二十四日開催

富士大和温泉病院について

質問 償還期間が平成二十二年度までとなっている旧共立病院改築の際の企業債については、利率が八%と高いので、繰り上げ償還をしたほうが財政的に有利ではないか。
答弁 現在手続を進めて

おり、三月議会で予算計上して繰り上げ償還する予定である。
質問 医療機器の買い増し、買いかえは検討しているのか。
答弁 経営状況の問題があるため、不都合がない限りは原則として長く使っていく。しかし、医療機器の購入、買いかえの計画は重要なので、今後具体的な検討に入るようである。
質問 正職員の医師七名

と非常勤の医師三名で合わせて十名というのは少ないと思うが体制は十分なのか。
答弁 正職員の医師は八名欲しいが、平成十六年に医師臨床研修制度が新しくなり、都市部の病院で研修を受けた医師が大学に戻らず、大学の医局に人材がいなく、という状況にある。よって大学から医師の派遣を受けている病院側としても医師の確保が非常に厳し

い。
意見 医師が来ない状況にあるなら、独自の助成制度等医師を獲得する方策を検討する必要がある。
三瀬診療所について
質問 決算の資料では、富士大和温泉病院は複式簿記だが三瀬診療所は単式簿記である。三瀬診療所も病院経営という観点から、複式簿記を用い減価償却費なども

をきちんと見せていく必要があると思うがどうか。
答弁 地方公営企業法を適用している温泉病院は複式簿記だが、適用していない三瀬診療所は単式簿記で会計を行っている。今後委員会資料として、バランスシートのような資料を作成できないか検討したい。
質問 三瀬診療所と富士大和温泉病院との連携は。
答弁 三瀬診療所には入院施設がなく、検査機器も



三瀬診療所

特別委員会

人口問題調査特別委員会

第一回 十一月十九日

人口問題はさまざまな部署に多方面で関わっていることから、特別委員会の調査範囲の確認、現状把握のために、人口動向や今後の対策について、執行部の説明を受けた。執行部としては、定住促進、限界集落、団塊世代、広報・体制の四つを柱として、今後の対策

を進めていくことが示された。これを受け、人口問題対策室が平成十九年八月に企画課内に設置された。日が浅いこと、人口問題そのものがすぐに結論が出るような問題ではないこと等を考慮し、特別委員会として、執行部から説明を受けたことを議論するだけできなく、委員会及び委員が主体的に調査、研究を行い、その双方をかみ合わせしていくという方向で運営す

ることを決定した。また、調査項目の序列化、重点化が必要と考え、委員を定住促進対策と限界集落対策との二グループに分けて、実効性のある調査、研究を進めていくこととした。
第二回 二月四日
委員会の前に、委員全員が「人口減少時代の到来と地域経済」と題した講演会(出席し、人口問題に関す

る理解を深めるとともに、意識の平準化を図った。終了後の委員会では、講演会を踏まえて、今後の特別委員会の進め方を協議し、調査期間を三ステージに分け、調査を進めることを決定した。
第一ステージ(平成二十年六月定例会まで)
基本的に委員全員で調査、研究を進めていく期間。委員は、主としてグループ単位で活動しているワークショップへの参加なども想定している。
第二ステージ(平成二十一

年も開催し、情報収集や現状問題の把握を行う。
第二ステージ(平成二十年十二月定例会まで)
各グループが課題の整理と集約を行うとともに、執行部と情報や資料を共有しながら調査、研究を深めていく期間。委員は、主としてグループ単位で活動しているワークショップへの参加なども想定している。
第三ステージ(平成二十一

年九月定例会まで) それまでに行う調査、研究の最終的なまとめの期間。

佐賀市議会 6月定例会のお知らせ
6月5日(木) 午前10時開会(予定)
※日程等については、定例会開会前に議会運営委員会で協議され、定例会開会日に正式決定されます。決定次第市のホームページでお知らせいたします。